

図1 陽性者数の推移と実効再生産数 (北部、中部、南部)

第65回(令和3年12月28日)
新型コロナウイルス感染症対策
アドバイザリーボード

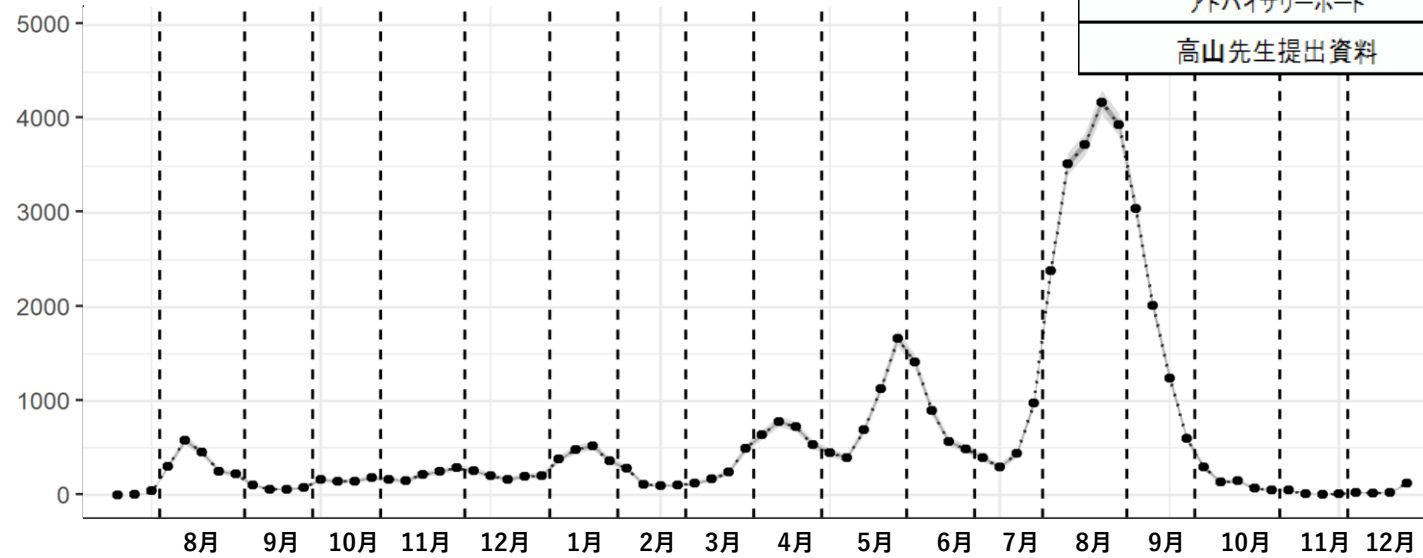
資料3-5

高山先生提出資料

陽性者数 (確定日)

週あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数

週あたり推定値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

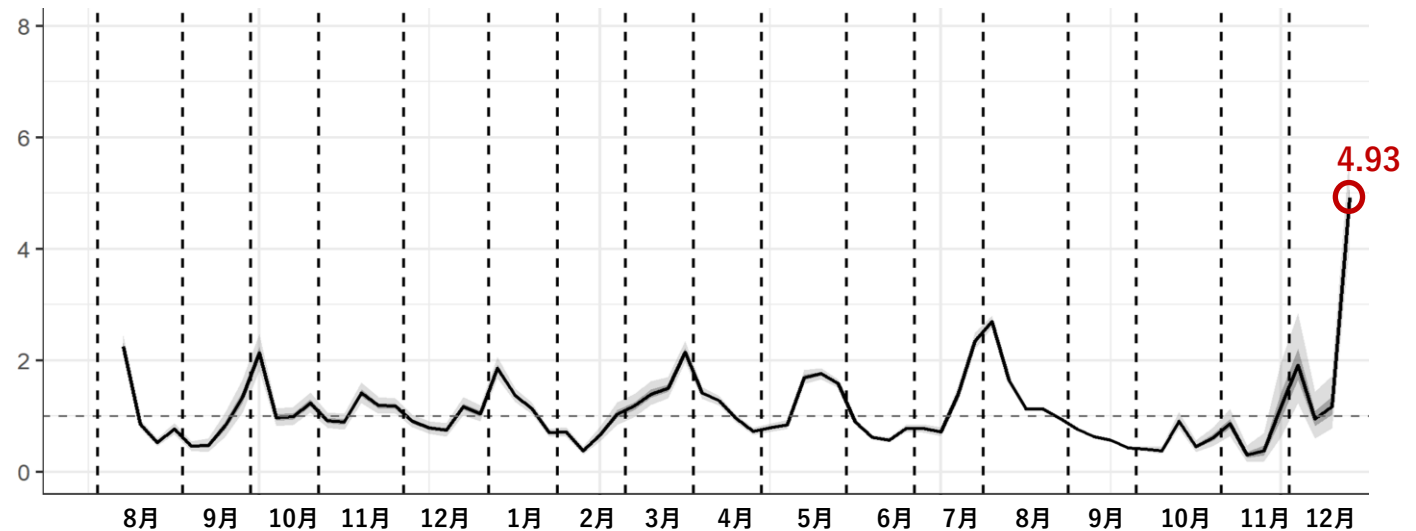
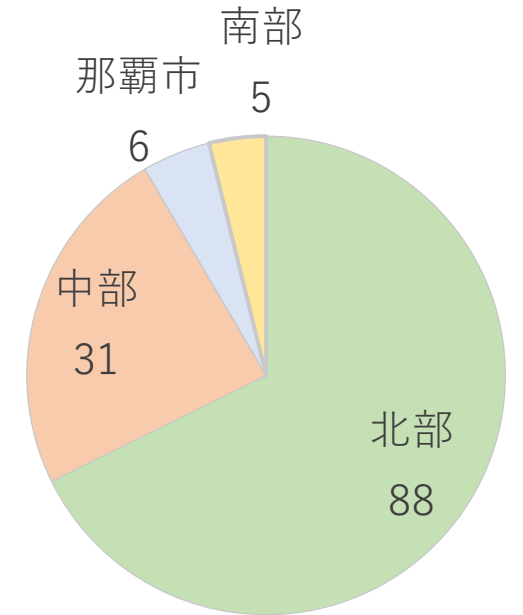
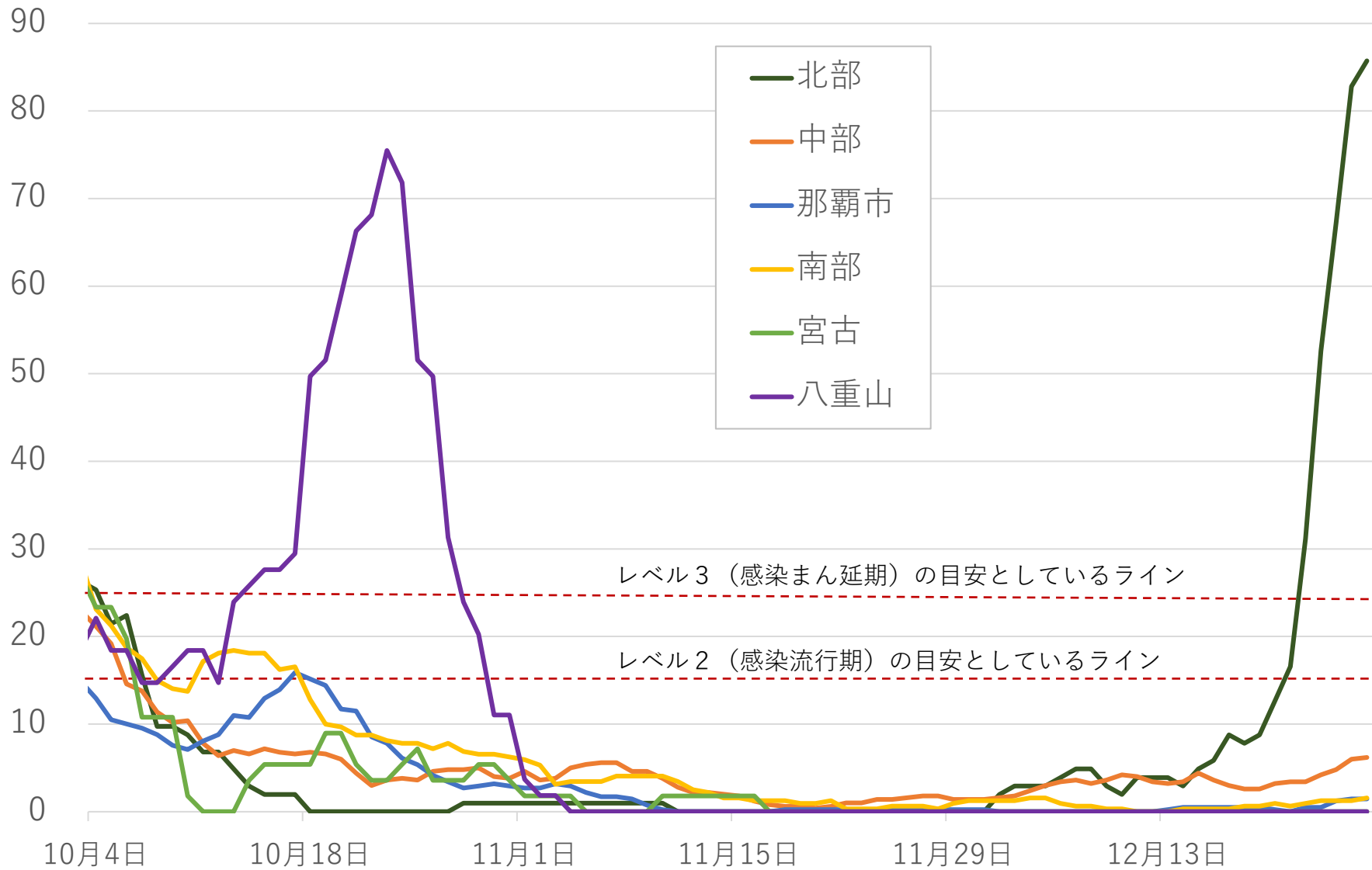


図2 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移

人口10万人あたり7日間合計



12月20日-26日

図3 沖縄県・市町村別ヒートマップ（12月20日～26日）

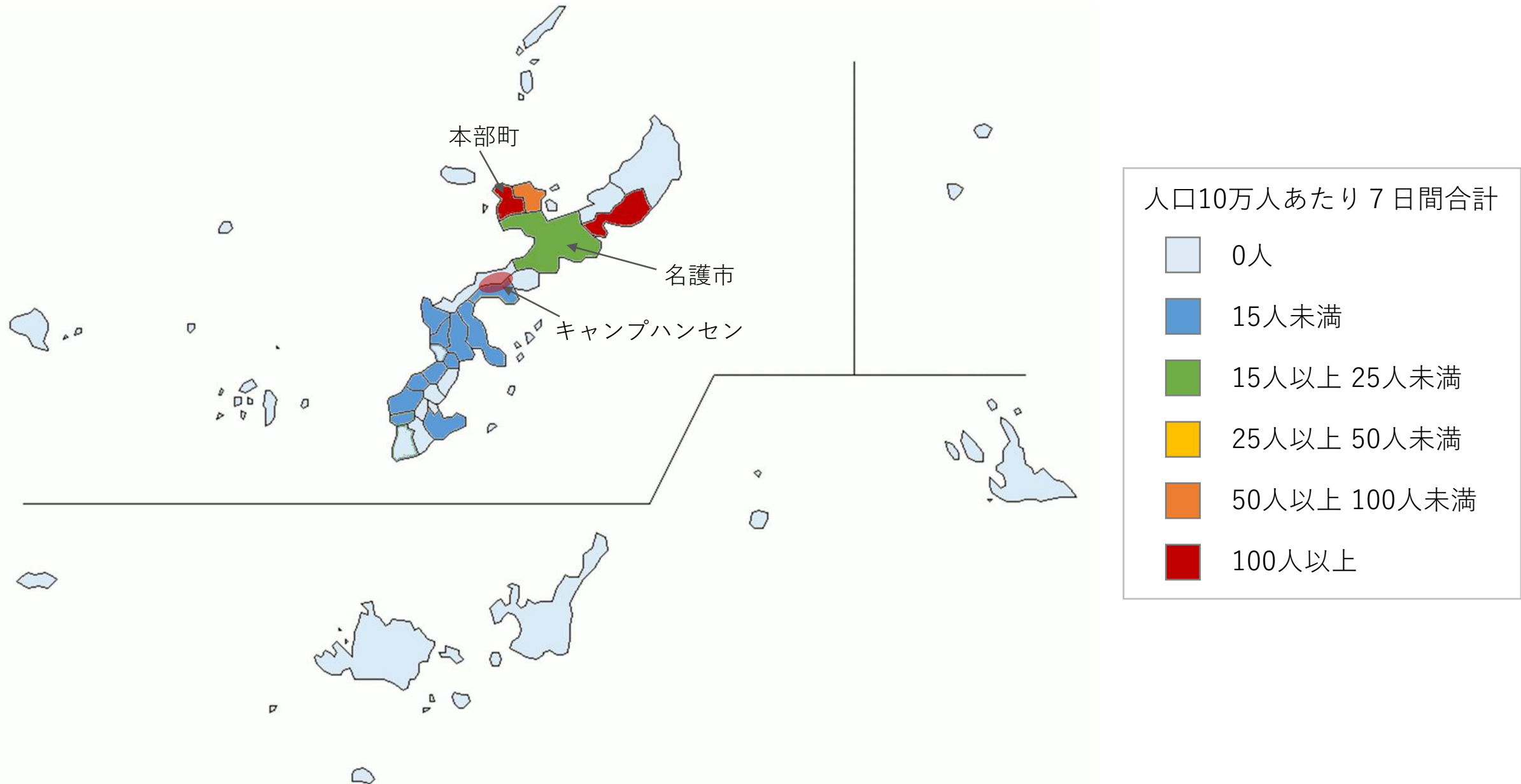
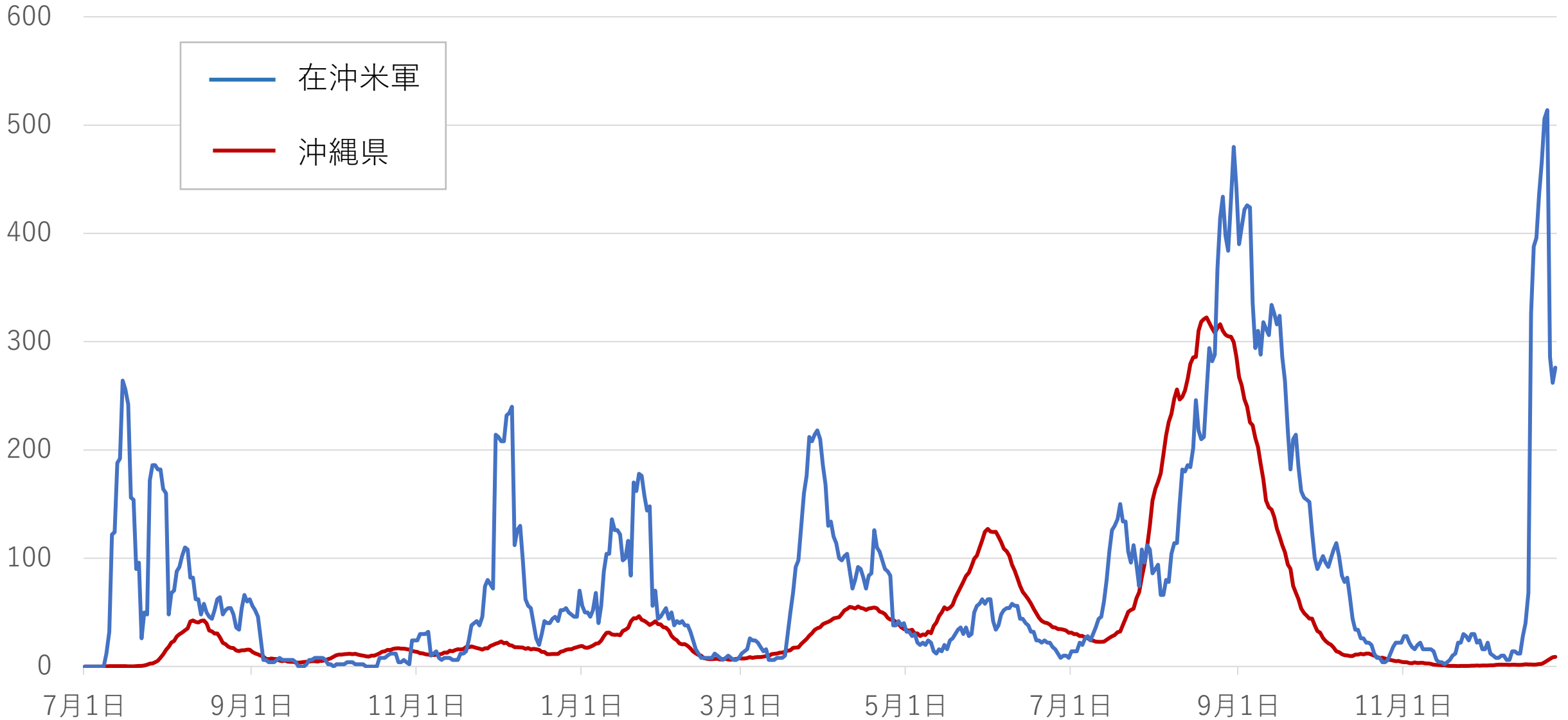


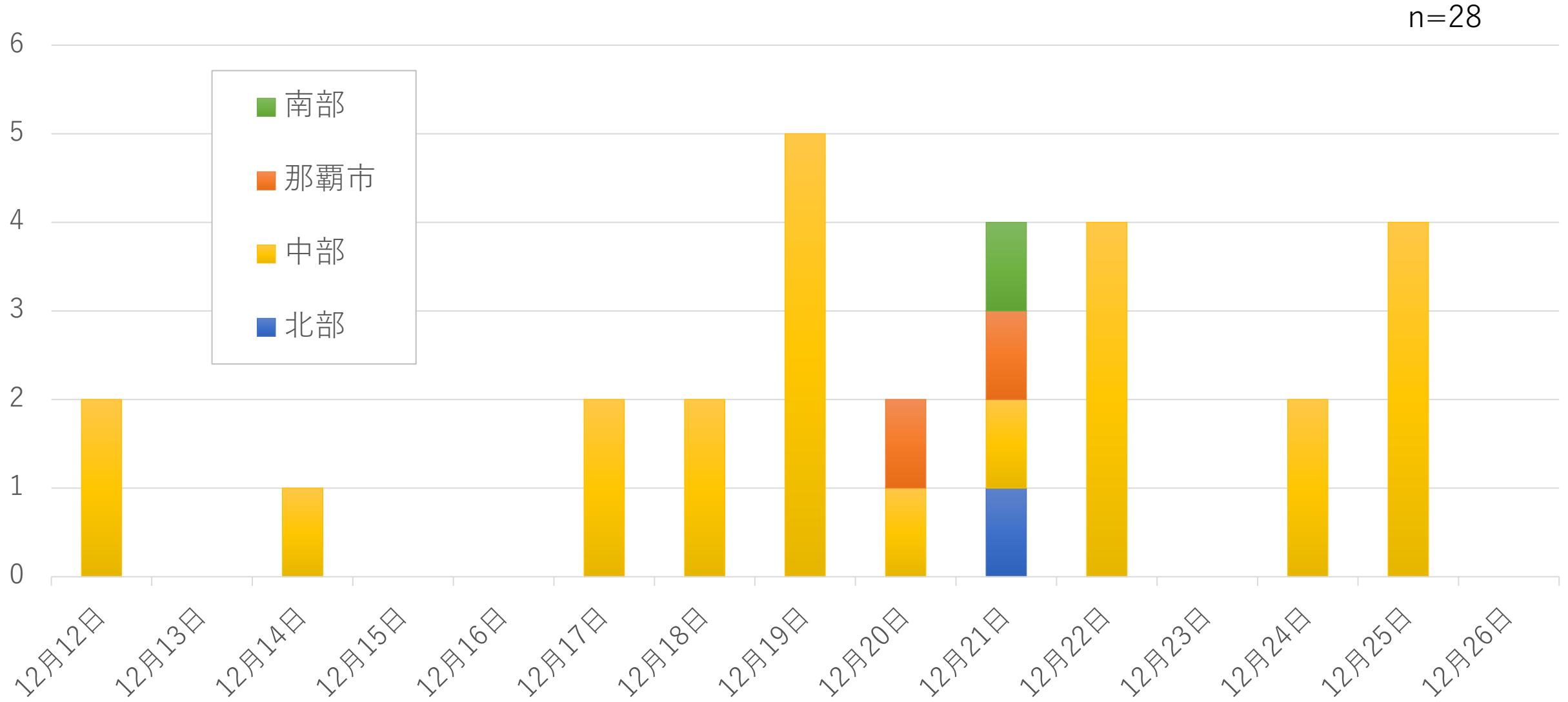
図4 在沖米軍と沖縄県における新規陽性者数の推移

人口10万人あたり7日間移動平均



データは在沖米軍公表および沖縄県報告に基づく

図5 オミクロン株の新規陽性者数の推移 (発症日ベース)



オミクロン株としての判定には、L452R変異株PCR陰性、オミクロン株濃厚接触者のPCR陽性者を含む。

図6 オミクロン株の濃厚接触者における感染状況（沖縄県）

12月26日までに報告されたオミクロン株（L452R変異株PCR陰性を含む）の濃厚接触者と接触経路

	同居	職場	会食	空手	その他	計
濃厚接触者	28	24	8	7	5	72
陽性	8	1※	0	0	0	9
陰性	20	23	8	7	5	63
陽性率	29%	4%	0%	0%	0%	13%

※ ただし、接触元から分離されたウイルスとはゲノムが一致せず。

図7 沖縄本島中北部における住民向け集団検査の結果

	実施日	受検者数	陽性数	陽性率
基地従業員 (主にキャンプハンセン従業員)	12月18日-26日	654	7	1.07%
金武町 (基地関係者、飲食店従業員等)	12月22日-24日	297	0	0%
本部町 (町民)	12月26日	114	0	0%
名護市 (キャンプシュワブ従業員、市民)	12月26日-27日	87	0	0%
計		1,152	7	0.61%

図8 新規陽性者数および重症度別入院患者数

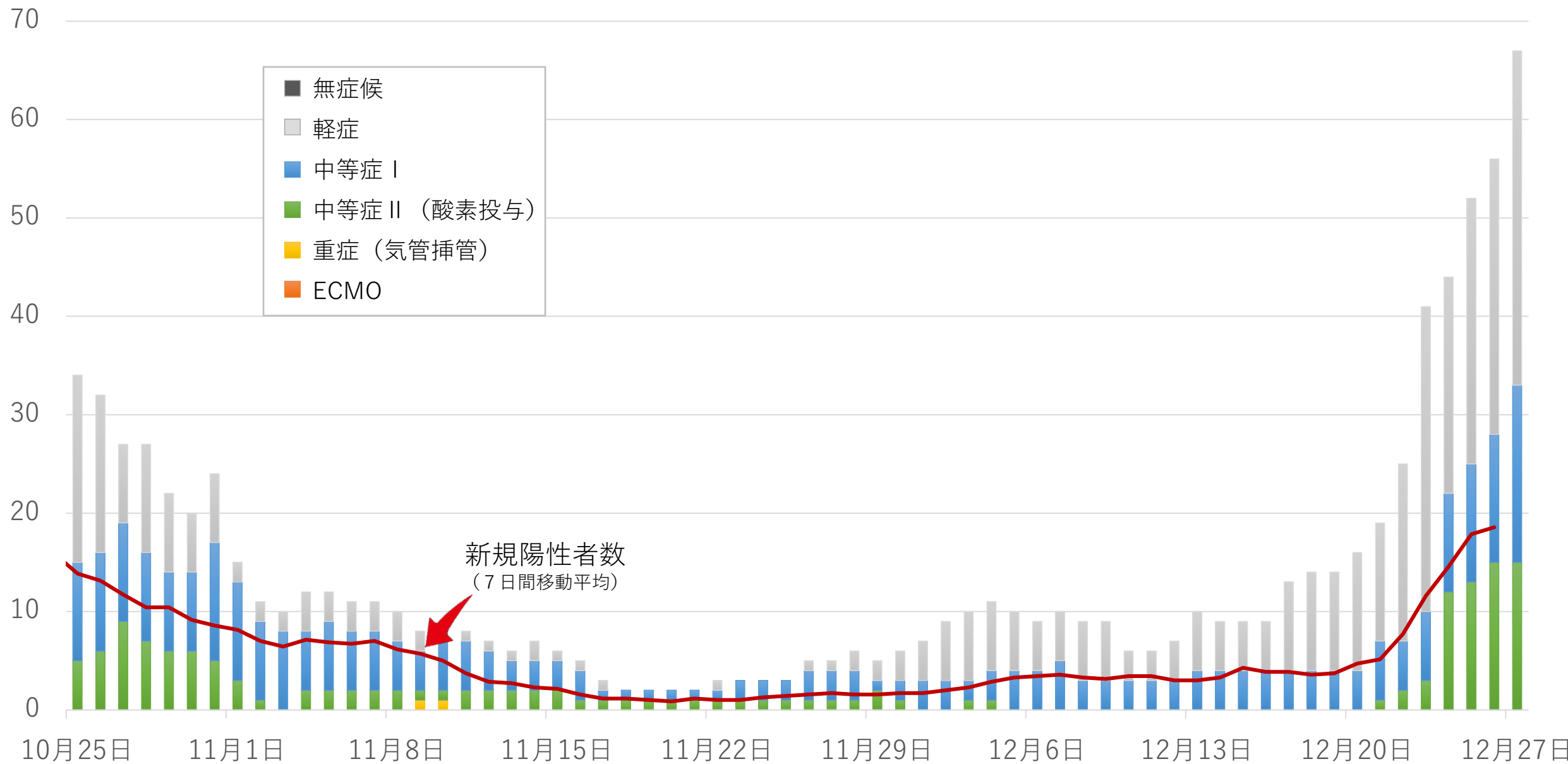


図9 沖縄県における医療提供体制の状況

- 1) オミクロン株感染者の全例について、個室対応で入院させることは事実上困難となっている。また、無症状や軽症者の見守りに急性期の医療資源が費やされており、現場の疲労感が高まっている。
- 2) 濃厚接触者には、小児や要介護高齢者、腎透析等のためホテル療養に適さない方が多く、自宅療養を容認したり、疑似症認定による入院で対応している。また、ホテル療養への同意が得られない方も増えている。
- 3) COVID-19を診断してからL452R陰性を確認するまでには、2日ほどの時間を要している。すでに療養場所を確定させているにも関わらず、L452R陰性が判明してから移送することになるため、労力を要している。
- 4) デルタ株とオミクロン株とのコホート隔離ができない中規模医療機関が多く、医療資源の非効率な運用となっている。さらに、隔離解除に陰性確認を求めているため病床が回転しなくなっている。

図10 年末年始に向けた対応方針について

現状		方針案
陽性者	全例入院治療	軽症者・無症状者のホテル療養を認める。特段の事情があれば自宅療養。
	デルタ株とオミクロン株の コホート隔離	病床が対応できる範囲で実施。
	退院時のPCR陰性確認	従来の隔離解除基準に戻す。
濃厚接触者	全例ホテルでの健康観察	自宅療養を併用し、必要性のある者のみとする。 (高リスク同居者、旅行者等)
	ホテル・自宅におけるPCR検査	確認時点でPCR検査を実施。その後は発症した時点で検査。 (または、迅速抗原検査の配布を検討)